

小学校高学年向け

未知の疫病と闘う二人



くもん出版

氷石

久保田香里作

およそ1300年前、今の私たちと同じように未知の病と闘っていた時代がありました。天平9(737)年の夏のことです。平城京では天然痘とよばれる疫病が流行し、多くの人々が亡くなりました。母を失い、唐から帰らない父を恨み、人の優しさにも素直に頼ることができずに荒んでいた主人公の千広は、石をきっかけに下働きの少女宿奈と出会います。つらい別れや施薬院の人々と

の交流の中で、いつしか千広の大切な人になっていた宿奈。しかし、無情にも疫病の魔の手は二人を引き裂こうとします。この時代の人々が向き合った恐怖が手に取るようにわかる今だからこそ、二人に起こる奇跡は氷が溶けるように温かく感じます。ひたむきに生きた千広と宿奈の物語はこの落ち着いた世の中できっと皆さんの救いとなり、希望になるのではないのでしょうか。(小野寺黎さん)



この夏 おすすめの一冊

孤独の中 妖精と出会い

皆さんは自分の気持ちに素直になれなかったり、思い通り物事が進まず悩んだりしていませんか? この本の登場人物たちもそんな悩みを抱えています。中3の夏、お京は両親が別れることになり、母方の祖母の住む島へ預けられる。話をしたいのに、いとこの舞波も忙しそうでなかなか話を聞いてくれない。おばあちゃんも慰めてはくれない。笑顔の似合う野球少年だったカイは、母親が亡く

なりすっかり変わってしまった。島で出会った妖精のつちんこは子どもにしか見えないらしい。つちんこは孤独な子どものところにやってくる。言いたいことを言えなかったり、素直になれず悩んだりするお京に共感してしまいます。そんなお京を見透かし、好き勝手に言うつちんこは自由でうらやましく、腹も立ちます。思春期の葛藤と成長が鮮やかに描かれます。(高橋憲恵さん)

村上しいこ作

夏に泳ぐ緑のクジラ



小学館

中学生向け

国内編

夏休みの課題で読書感想文を提出する人も多いでしょう。この夏おすすめの一冊を、宮城県図書館子ども図書室の司書さんに教えてもらいました。2回に分けて紹介します。1回目は国内編です。

小学校中学年向け



新日本出版社

佐々木ひとみ・野泉マヤ・堀米薫作

みちのく妖怪ツアー

今でも人の暮らしの中で生きる続ける東北の妖怪たち。そんな妖怪たちを題材にしているのが、宮城在住の3人の作家によって書かれた『みちのく妖怪ツアー』です。夏休み、東北の妖怪スポットをめぐるバスツアーが開催され、見ず知らずの小学生たちが集まります。けれど、このツアー、なんかへん。添乗員さんは冷ややかだし、バスの運転手さんは不気

きつねのしっぽ

おくはらゆめ作



小峰書店

小学校低学年向け

優しさに心がほっこり

皆さんは、きつねのしっぽを見たことがありますか。きつねのしっぽは、胴体と同じくらい長く、ふさふさの毛で覆われています。この物語に登場するきつねも、そんな立派なしっぽを気に入っていて、とても大切にしています。きつねは、朝と昼そして夕方、1日に3回もしっぽの手入れをします。まず、丈夫な松葉で作ったくしで毛をと

上げに色とりどりのお花を飾ります。ところが、ある朝いつものように手入れをしようと椅子に座ったきつねは、くしが無いことに気がつきます。家の中を探しますが、見つかりません。昨日出かけたときに落としたのかも知れないと、雨の降る中、くしを探しに出かけますが…。きつねの優しさに心が温くなる本です。(今野陽子さん)

一人ずつ子ども消え…

味。しかも、各地を訪れるたびに、集まった子どもたちが一人ずつ消えてゆくのです。現在、このシリーズは3冊発行されていますが、どの巻も東北の魅力が詰まっています。この夏、旅行を控えている人も多いはず。『みちのく妖怪ツアー』を読んで、東北各地をめぐってみませんか? 地方の美味しいものもたくさん出てきますよ。(佐藤加奈子さん)

きとうかなこ